



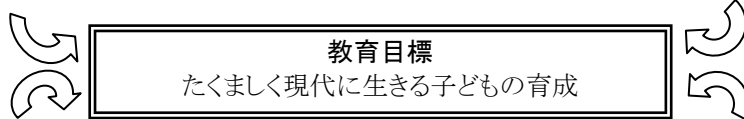
館山市の教育施策

学校教育の充実のために、校長のリーダーシップと確かな現状分析に基づく学校経営の推進

- 知識や技能の習得を通した「確かな学力」を身につけるための具体的方策や実践。
- 「安全・安心で開かれた学校づくり」の更なる推進
- 生徒指導の充実を図り、明るい挨拶のある元気な学校、子ども一人一人の心の居場所が確保されている学校の実現→いじめ・長欠解消・虐待の早期発見と防止

保護者の願い

- ・心、頭、体、バランスよく育てほしい。
- ・基礎学力の定着を図ってほしい。
- ・学ぶ意欲を育成してほしい。
- ・思いやりのある子どもに育てほしい。
- ・一人一人にきめ細かな指導をお願いしたい。
- ・子どもたちの安全・安心を確保したい。



北条教育の理念

子ども一人一人の人間性を尊重する教育。
子どもたちの問題意識を中心にとらえ、枠を取りはらい自由で柔軟性のある教育を目指す。

子どもの実態

- ・活動的で、創造的である。
- ・地道な活動を選けたがる傾向がある。
- ・後片付けが苦手である。
- ・挨拶や返事ができる。

目指す学校像

活力あふれ、夢が膨らむ学校

- ・子ども主体で、子どもにとっても教師にとっても楽しく活力あふれ、夢が膨らむ学校
- ・「あいさつ」と「歌声」が響く学校

目指す子ども像

未来の当事者としての自覚をもつ子
受容的批判的思考、創造的発想で自分を確かにし、断行力を発揮して

- ・一人でも仲間とでも、主体的・創造的に学び、豊かに表現する子
- ・思いやりと優しさを持ち、前向きに生きる子
- ・やり遂げる意思と体力の向上をめざす子

目指す教師像

北条教育これからを見つめ、創造する教師
日々、研修・研究に励み

- ・「生きる力」である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に努めながら、教育の本質を主体的に模索する教師
- ・足下を見つめながらも、物事を時間的・空間的な広がりの中でも考えようとする教師
- ・「不易と流行」「共通と固有」等、相対する視点を持つ教師
- ・より良くする為には、柔軟な発想で、新たな実践にも思い切って挑戦する教師
- ・子どもを愛し、知り、子どもを伸ばすための努力を惜しまない教師
- ・教える人こそ学ぶを実践し、何より人間的にも自分を高めようと努める教師
- ・保護者、家庭、地域を信頼する教師
- ・分担に耐え、分担に生き、分担を超える教師

本年度の教育課題と取り組み

「当たり前のこと」を職員の共通理解の下、「当たり前のこと」を児童に意識させ、できるようにしていく中で、児童の主体性の伸長を図る。
(重点)①好きなこと、得意なことを増やしていこう。失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジ。
②友達や先生、地域の人と仲良くなる。あいさつ・返事・「あったか言葉」・「ありがとう」「こめんね」等。
③家庭や学校、地域の喜ばれることをしよう。

課題へのアプローチ（教育の成果は子どもの姿で語られる）

〈児童への投げかけ〉

- 好きなこと、得意なことを増やしていこう。
失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジしよう。失敗は成功の「もと」です。
- 友達や先生、地域の人と仲良くなる。
 - 大きな声で、あいさつや返事をしよう。
まずは、家で。登下校中や学校でも、自分からあいさつをして、相手を笑顔にしよう。
 - 「あったか言葉」を使おう。
「ありがとう」「こめんね」等、言われたら気持ち温かくなる言葉を使おう。
「うざい」「きもい」等、言われると悲しくなる言葉を使わない。
- 家庭や学校、地域の喜ばれることをしよう。
お手伝いや掃除、ゴミ拾い等を進んでしよう。

〈教師の姿勢〉

率先垂範：教師が模範となる姿を示し、一緒に行動する。
「やってみて、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。」

誠心誠意：子どもや保護者の立場に立った対応をする。

〈プラス〉○学年主任を中心として学年の指導・支援体制の確立。 ○独自のこだわり実践に磨きをかけ、独りよがりにならないように評価をしてもらう。 ○子どもの努力を認める「表彰の場」の新設 ○「北条っ子の10の約束」の徹底 ○電子黒板の活用 ○いじめ防止策の徹底 ○関係機関との連携を深め、活用

迫る努力点

(1) 質にこだわる, 授業改善

- ア 教科の本質・価値を捉えているか。授業改善の視点を教師は持つ。
- イ 主体的・創造的な学習を展開する中で, 子どもの受容的批判的思考力, 創造的発想力, 断行力を育むための教材研究・開発に努める。
- ウ 子どもの主体的・創造的な学習を展開するためにも教えることを躊躇しない。
- エ 統合学習では「いかに」を問う前に「何のために」を問う。
- オ 子どもがわかるための授業改善, だから, 「子どもの学ぶ姿」で評価する

(2) 自主・自律を目指す学級・学年経営

- ア “前年踏襲”, “汗も知恵も出さない経営”では成果が得られない。常に課題を求め, 改善のための議論を惜しまない組織体を目指す。学級目標を飾り物にしない。
- イ 「子どもが主体」を具現するために, 「その気にさせる」手立てを工夫する。
認め合う集団づくり, 議論しあう集団づくり, 納得理解し, パワーアップを図る集団づくり。
- ウ 集団の中で, 受信力, 発信力を鍛える。
- エ 自主性・主体性の対には自己責任がある。責任を果たす人の育成を意識する。

(3) 地域との連携・協働の視点

- ア 「地域を知る, 地域を愛す, 地域を考える」人の育成に努める。
- イ 地域の教育力を教育活動に積極的に導入し, 「地域ぐるみの子育て」を推進する。
- ウ 学校支援ボランティアとの連携をさらに充実させる。
- エ 安全・安心の視点からの連携強化をする。(校外生活指導 不審者対応 災害対策)

職員構成

		校長 田中 順勝	教頭 菊間俊徳
1	年	庄司ます美(主), 小澤 楓, 渡邊早苗, 菊間かほる(副)	
2	年	渡邊恵子(主), 松川彩音, 多田修平, 早川泰子(副)	
3	年	原 晴美(主), 石井俊道, 蒔苗小百合, 松本直樹(副)	
4	年	黒川久美(主), 石井慎一郎, 安藤好靖, 永井登志美(副)	
5	年	池谷 薫(主), 山下剛史, 座間あすか, 岡本泰彦(副)	
6	年	田中志のぶ(主), 小泉拓也, 松本謙吾, 庄司 健(副)	
特別支援		平野 文(主), 田畑祐輔, 中川なをみ, 松田千夏, 鈴木信昭(副), 安西貴美子, 三幣望未, 堀江麻称美	
カリキュラム管理室		庄司智和(教務主任), 若月祐子(音楽専科), 原田幹士(生徒指導), 三浦裕太(少人数), 鈴木陵太(少人数), 大溝政孝(少人数), 鈴木美枝子(初任研指導), 池田順子(訪問相談担当) 杉田真理子(スクールカウンセラー) 武田由美(スクールソーシャルワーカー), (学習サポーター)	
事務室		上田朋美(主査), 大川千秋(養護教諭), 平島弘子(市事務), 中村正次(営繕手)	
育休	出山陽子・押元文子	療休	白井直子

児童数

(H27.5.1 現在)

年	1	2	3	4	5	6	知的	自閉・情緒	合計
人数	121	110	135	116	130	125	22	10	769

教育課程

「たくましく現代に生きる子ども」を育成する教育課程

1. 核としての「北条プラン」

本校の教育目標「たくましく現代に生きる子どもの育成」具現化のための教育課程編成の核は, 北条プランの編成である。北条プランは, 目の前の子どもに理想として与えるべく編成した北条小独自の教育課程である。北条プランは, 常に絶えることなく, PDCA サイクルを繰り返し, 「プラン I」(1962)から始まり, 平成19年度に「北条プラン X」が完成した。

平成23年度には, 新しい理念「生きたつながりを創造する子どもたちの育成」の授業を公開した。平成27年度は, 目指す子どもの姿を「未来の当事者」とし, さらに, 子ども一人一人が主体的に未来に関わり, 未来を切り拓く力, つまり, 「創時力」を育成するために, 「受容的批判的思考力, 創造的発想力, 断行力」を身につけたい力とした。そして, 「創時力」の理念に基づくこれ

までの実践による成果を、公開研究会で公開した。今年度は、「創時力」を進化・深化させ、「創時力」を身につけさせるための授業や指導のスタンダードの確立を目指す。その上で、「北条プラン 11」の完成を目指していく。

2. 教育課程の編成

「生きる力」を育む教育と「創時力」を育むための教育の両面を意識して教育課程を編成する。

(1)「広がる思考と表現する力」のとらえ方

広がる思考と表現する力とは、一人一人のものの見方・考え方(感性)を大切にしながら、個々の考えや思いをその子にあった表現方法で他にわかりやすく表現し、互いに高め合う力である。この力は、そのためには、自ら見いだした問題に対してさまざまな情報を活用したり、他の意見を受容的、批判的に聞いたりしながら個々の思考を広げたい。そして、生まれた創造的発想力を大切にし、それが断行力(実践力)につながるように支援していく。そのためには、子どもの主体的・創造的学習を積極的に展開する必要がある。

(2)「主体的・創造的学習」の条件

- 切実な問題意識をもつ。
- 自分の考えを練り上げる場がある。
- 集団の中での磨きあいの場がある。
- 具体的、体験的な活動がある。
- 子ども自身が高まりを感じられる評価の工夫がある。

(3)育成の視点

- 認め合う集団、議論し合う集団を育てる。
- 多様な体験活動の場を用意し、学ぶ意欲の喚起や主体的に学ぶ力を育成する。
- 目標に対する評価を確実にを行い、振り返りへ生かす。
- 教科間、教科・統合間等関連を図りながら、より子どもの問題意識や興味関心に寄りそった教材開発や指導方法の工夫を図る。

(4)連携の重視

- 保護者・家庭・地域と連携し、開かれた学校づくりをめざす。
- 異校種間交流を積極的に進める。

研究・研修計画

1. 研究テーマ

創時力 ～双極の窮究と調和～

まず、「未来は待つものではなく、創造するものである」という前提に立つ。学校教育目標「たくましく現代に生きる子どもの育成」に向かって今までは、常に未来を予測しながら、未来に生きる子どもたちの姿を模索し、目の前にいる子どもたちを育ててきた。しかしながら、社会の急速な変化や自然の驚異などによって未来を想定することは容易ではなくなっている。だからこそ、今、自らの力で未来を創り上げていくことのできる子どもたちの育成が急務なのである。そこでは、例えば「自己実現」か「共生」かどちらかではなく、どちらも視野に入れながら、価値観を構築し、判断力、実践力をもって生きていくことのできる子どもの育成がのぞまれるのである。

2. どのように「創時力」を育むのか

「創時力」を育むための3つの力として、「受容的批判的思考力」「創造的発想力」「断行力」がある。

「受容的批判的思考力」とは、物事を受容的にみたり、批判的にみたりする力。
「創造的発想力」とは、受容的批判的思考力を生かした独自の発想を生み出す力。
「断行力」とは、前に踏み出す力。

これらの力は、「真正な学び」を前提とした「生きたつながり」、つまり、自分も他者も高め合う関わりの中で育むことができる。そのために

- ◇主体的・創造的な学習の展開。
- ◇現在を診たり未来を展たりできるカリキュラムの開発。

3. 研究・研修の内容

(1)「創時力」の進化と深化

これまでの北条小の研究に基づいて、「創時力」について研究を深め、「創時力」を身につけさせるための授業や指導のスタンダードを確立する。

(2)「創時力」を育むための教科の捉え

各教科等のねらいを受け、さらに「創時力」を意識した指導内容や方法の工夫について考える。
統合学習の見直しを図り、教科との関連を深める。

(3)授業実践

「北条プラン11(案)」に基づく実践により、その効果について検証する。